

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成17年9月解析分)

1 疾患別定点情報

定点把握(週報)五類感染症

平成17年8月分(平成17年8月1日~8月28日:4週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	0	0.00	0.00		12	ヘルパンギーナ	382	1.27	1.31	↘
2	RSウイルス感染症	1	0.00			13	麻疹	0	0.00	0.08	
3	咽頭結膜熱	204	0.68	0.63	↗	14	流行性耳下腺炎	535	1.78	0.88	↘
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	129	0.43	0.36	↘	15	急性出血性結膜炎	1	0.01	0.06	
5	感染性胃腸炎	938	3.13	2.24	↗	16	流行性角結膜炎	83	1.04	1.46	↗
6	水痘	184	0.61	0.55	↘	17	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.01	
7	手足口病	842	2.81	1.48	↓	18	無菌性髄膜炎	13	0.15	0.22	↘
8	伝染性紅斑	44	0.15	0.17	↘	19	マイコプラズマ肺炎	9	0.11	0.17	
9	突発性発疹	206	0.69	0.84	↘	20	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
10	百日咳	5	0.02	0.02		21	成人麻疹	0	0.00	0.00	
11	風疹	4	0.01	0.01		「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

急増減	増減	微増減	横ばい
↑	↗	↗	⇒
↓	↘	↘	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	殆ど増減なし(発生件数少数のものを含む)

定点について

定点情報は、定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について、県内188の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD 定点	基幹定点	合計
対象疾患 No.	1	1~14	15, 16	22~25	17~21, 26~28	
定点数	45	75	20	27	21	188

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
22	性器クラミジア感染症	53	1.96	2.44	↗	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	115	5.48	6.10	↗
23	性器ヘルペスウイルス感染症	13	0.48	0.57	↔	27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	37	1.76	1.22	↔
24	尖圭コンジローマ	13	0.48	0.40	↔	28	薬剤耐性緑膿菌感染症	12	0.57	0.39	↔
25	淋菌感染症	8	0.30	1.05		「過去5年平均」：過去5年間の同時期平均（定点当り）					

手足口病

急減（7月3,371件 8月842件）

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

一類感染症

発生なし

二類感染症

1件発生【細菌性赤痢1件（福山市保健所管内）】

三類感染症

12件発生【腸管出血性大腸菌感染症 { O157 10件（尾三地域保健所管内2件，東広島地域保健所管内1件，広島市保健所管内1件，福山市保健所管内6件） O111 2件（芸北地域保健所管内1件，広島市保健所管内1件） }】

四類感染症

発生なし

全数把握五類感染症

6件発生【アメーバ赤痢1件（東広島地域保健所管内）
梅毒2件（広島市保健所管内1件，呉市保健所管内1件）
劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件（呉市保健所管内）
クロイツフェルト・ヤコブ病1件（広島市保健所管内）
後天性免疫不全症候群1件（広島市保健所管内）】

3 一般情報

今年は、流行性耳下腺炎が例年に比べ多く発生しています。また、これからの季節、インフルエンザの流行が予想されます。

流行性耳下腺炎

好発年齢..... 3歳～6歳までの幼児，学童に多い。

好発時期..... 年間の発症者数は冬から初夏にかけて増加するが，一年をとおして見られる。

病原体..... ムンプスウイルス

感染経路..... ムンプスウイルスを含む唾液又は咽頭分泌液の飛沫感染と接触感染によりヒトからヒトにのみ感染する。
唾液中のムンプスウイルスの排出期間は，発症数日前から症状出現後9日頃までであるが，主な伝播可能期間は発症2日前から症状が出現した後5日頃までである。

潜伏期間..... 12～25日（通常は16～18日）

症 状..... 急に始まる唾液腺の有痛性腫脹。両耳下腺が最も多く腫脹する。顎下腺や舌下腺も腫脹する。

唾液腺の腫脹は48時間以上持続する。

発熱は唾液腺腫脹前から出現し，唾液腺腫脹のピークまで持続する。

3～10%に無菌性髄膜炎の合併を引き起こす。

予防方法..... 流行性耳下腺炎は，耳下腺腫脹などの症状出現前からウイルスを排出していることや，不顕性感染者もウイルスを排出していることから，流行をコントロールすることは困難である。

予防対策は，ムンプスワクチンの予防接種（任意）が推奨される。

そ の 他..... 注意事項 思春期以降の男性では25%に睾丸炎を，思春期以降の女性では30%に乳腺炎を合併する。
また妊婦が感染した場合には自然流産することがある。

インフルエンザの予防接種を受けましょう。

例年、インフルエンザの流行は、11月下旬から12月にかけて始まり、翌年の1月から3月に流行のピークがみられます。

インフルエンザは人口の1割の人が感染するとされ、重症化するのは高齢者や幼児であるといわれています。予防接種は1～4週間の間隔をあけて2回接種する方法が一般的です。（高齢者は1回の接種で良いとされています。）各医療機関で予防接種を受けることができますので、事前に予約をして、流行前に予防接種を受けてください。

インフルエンザワクチンの予防接種

予防接種による免疫の獲得には、接種後2週間程度かかります。

予防接種による免疫効果は、5ヶ月程度持続されます。

流行前に予防接種を受けましょう。

麻しん風しんの定期予防接種の対象が平成18年4月1日から次のとおり変更になりますので、注意してください。

	現行（平成18年3月31日まで）	変更後（平成18年4月1日から）
対象者	生後12月から生後90月に至るまでの間にあるもの	生後12月から生後24月に至るまでの間にあるもの 5歳以上7歳未満の者であって、小学校就学の始期に達する日の一年前の日から当該始期に達する日の前日までの間にあるもの
ワクチン	麻しんワクチン 風しんワクチン	乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン

平成18年3月31日までに麻しん、風しんのワクチンを接種した場合は、平成18年4月1日以降の制度を利用することはできません。特に、平成18年3月31日までに麻しん又は風しんワクチンのどちらか一方を接種した場合は、平成18年4月1日以降は、接種していない方のワクチン接種についても定期の予防接種とはなりませんので、平成18年3月31日までに、接種していない方のワクチン接種を完了するようにしてください。